

# 福祉厚生事業

## 一 健康管理事業

### (一) 短期人間ドック

教職員の健康管理の最重点事業として事業を実施している。

昭和五十七年は四十歳、四十五歳、五十歳、五十五歳以上の教職員を対象に県内総合病院及び公立学校共済組合東北中央病院と契約をし、検診人員千九百六十一名の実施を予定している。

最近の教職員の健康管理に対する意識の高揚もあって、年々受診希望者が増加しているが、本年も二千八十六名の申込みがあり、予定人員を百二十五名オーバーした。

これらの事態に対応するため、実施人員の拡大、年令の引下げ等を検討してきたが、本年も昨年を引き続き一日ドックの導入によって実施人員の増を図った。

なお、オーバーの人員については全員補欠者として欠員補充の対策とし、年度末まで一人でも多くの教職員が受診できるように態勢をとっている。

昭和五十七年度の実施計画は表1のとおりであるが、受診決定者は早期発見、早期治療の立場に立って、この際万難を排して受診されたい。

昭和五十六年度の検診結果は、表2

表1. 昭和57年度人間ドック実施状況

医療機関	委託人員	検診料		備考	
		男	女	1日ドック	検診料
東北中央病院	100	52,160	53,280	60	30,000
県保険衛生協会	715	44,000	48,000		
済生会福島病院	50	45,000			
保原中央病院	30	45,000			
太田総合熱海病院	416	57,000		1日ドック 60	検診料 33,000
公立岩瀬病院	30	55,000			
小野町地方総合病院	30	55,000			
塙厚生病院	30	55,000			
県立会津総合病院	160	50,600	52,450	1日ドック 40	検診料 30,660
竹田総合病院	80	57,000			
松村総合病院	170	54,000		1日ドック 40	検診料 33,000
磐城共立病院	150	55,000			
計	1,961				

(二) 婦人科検診  
女子教職員の成人病予防対策として子宮ガン検診、乳ガン検診を実施しているが、女子教職員の希望者全員を対象に子宮ガン、三十五歳以上の女子教職員を対象に乳ガン検診を実施し、子

のとおりであるが、要精検・要治療と判定された者は必ず二次検診を受診して、初期のうちに疾病を治ゆされるよう望むものである。

表2. 昭和56年度人間ドック実施結果表

検査項目	指導基準				受診者 (a)	指導基準別比率			
	A	B	C	D		A/(a)	B/(a)	C/(a)	D/(a)
一般理学	1.147	345	315	39	1.846	62.1	18.7	17.1	2.1
呼吸器系	1.538	315	87	10	1.950	78.9	16.2	4.5	0.5
循環器系	829	465	444	212	1.950	42.5	23.8	22.8	10.9
消化器系	946	612	348	33	1.939	48.8	31.6	17.9	1.7
腎機能	1.541	290	95	24	1.950	79.0	14.9	4.9	1.2
胆のう	1.589	45	31	15	1.680	94.6	2.7	1.8	0.9
肝機能	1.634	173	117	26	1.950	83.8	8.9	6.0	1.3
糖尿	1.210	377	284	79	1.950	62.1	19.3	14.6	4.1
血液系	1.519	307	92	32	1.950	77.9	15.7	4.7	1.6
血清	1.761	57	9	1	1.828	96.3	3.1	0.5	0.1
外科	395	68	42	18	523	75.5	13.0	8.0	3.4
眼科	1.397	458	53	20	1.928	72.5	23.8	2.7	1.0
婦人科	372	107	16	30	525	70.9	20.4	3.0	5.7
延人員及平均	15.878	3.619	1.933	539	21.969	72.2	16.5	8.8	2.5

注) 指導上の区分  
 A.....異常なし  
 B.....僅かに異常を認めるが日常生活上支障なし  
 C.....日常生活上注意を要する、改めて精密検査を要する  
 D.....治療を要する